

国 語

(中学校第 1 学年)

注 意

- 「始め」の合図があるまで、中の問題を見てはいけません。
- 下の欄^{らん}に、組、出席番号、名前を書きなさい。
- 「始め」の合図があったら、別に配られている解答用紙に、組、出席番号、名前を書き、「A問題（基本）」から始めなさい。
- 問題用紙は、全部で 1 0 ページあります。
「A問題（基本）」は、6 ページで、問題は **五** まであります。
「B問題（活用）」は、4 ページで、問題は **二** まであります。
- 問題に取り組む時間のめやすは、「A問題」が 2 5 分、「B問題」が 2 0 分です。
時間に気をつけて解きなさい。
早く終わったら、先に進んで解いても、もとにもどって解いてもかまいません。
- 答えは、解答用紙の決められた場所に、はっきりと書きなさい。
- 印刷がはっきりしなくて読めないときは、だまって手をあげなさい。
問題の内容などの質問には答えられません。

	問題番号	時 間
A問題（基本）	一 二 三 四 五	2 5 分
B問題（活用）	一 二	2 0 分
合 計		4 5 分

1 年	組	番	名前
-----	---	---	----

A 問題

(二十五分)

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

島子^{しまこ}は、牛の親子の世話を任されていた。島子の住む村では、冬の間、働く牛の仕事がないため、山の村へ牛を貸すのがしきたりだった。山では、牛たちに重い材木を運び出す重労働が待っていた。島子が世話している母牛も、山へ行くことになった。

「今年だけは、おけちゃんを[※]かんにんしたってほしいねんけど。」おけちゃんというのは、母牛に付けたニックネームだった。母牛は、空腹になると、空の[※]かいばおけをコトコト鳴らしてさいそくすることを知っていた。ほうっておくとおけがこわれてしまうので、人がかけつけていくと、牛は、おけをぼうしのようにかぶって、ンモウと鳴いた。そのことから、いつの間にか、母牛は「おけかぶり」と呼ばれていた。

じいさんの目が三角になった。

「なんでや。」

「おけちゃん、去年山から帰ってきて、じきに[※]ちびを産んだんやで。それから田植えや。やせてしりの骨がとんがるほど働いて、また山行きやもん、休む時が[※]あれへんやないか。」

「好きで行くのやないよってに。」

じいさんはだまっていた。

島子の父が戦争に行ったのは、ちょうど去年の今ごろだった。駅まで見送りに行った時、父は初めてぐちをこぼした。

「好きで行くのやない。大きな声で言えんが、この年になって、子供を置いていくのは、つらいわい。」

島子は、母のもんべにしがみつきながら、その言葉をはっきりと聞いた。じいさんもそばにいた。

「なんぼう牛でも、親子が別れ別れになるのやで。今年の冬だけは、うちに置いてやって。たのむわ、じいちゃん。」

(川村^{かわむら}たかし「山へ行く牛」による)

※ かにんしたってほしいねんけど：ゆるしてほしいんだけど。

※ かいばおけ：牛や馬などに与えるえさの牧草などを入れるおけ。

※ ちび：島子が世話をしている牛の産んだ子牛の名前。

※ あれへんやないか：ないじゃないか。

問一 文章中に――線「今年だけは、おけちゃんをかんにんしたってほしいねんけど。」とありますが、島子がこのようにじいさんにたのんだ理由として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 初めて世話をまかされた牛を、他の人に世話してほしくないから。

イ 父が戦争から帰ってくるのを待って、山行きをさせたかったから。

ウ 子牛を産んだし、休む間もなく働いているので、山行きをさせたくなかったから。

エ やせてしりの骨がとんがるほど働いているので、山の牧草をたくさん食べさせたいから。

問二 この文章の特ちょうについて説明したものとして、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 順序を表す言葉を多く用いて、話を分かりやすくしている。

イ 会話に方言を用いて、温かさや親しみやすさを表している。

ウ たとえを用いて、風景の美しさを印象的に描いている。

エ 様子や音を表す言葉を多く用いて、臨場感を高めている。

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（〔1〕～〔4〕は段落の番号である。）

〔1〕 日本は、国土の約六十七パーセントが森林であると言われていま
す。この国は温帯多雨の気候地帯（温帯で、夏に雨の多い地域）に
あつて、その森林は、西日本と東日本の太平洋に沿った地域のほぼ
全ては常緑広葉樹林、それ以外の地域は落葉広葉樹林から成ってい
ます。具体的には、常緑広葉樹はシイ、カシ、タブノキなど（広い
葉を持ち、冬でも葉を落とさない木）、落葉広葉樹は、コナラ、カ
シワ、ブナなど（広い葉を持ち、冬に葉を落とす木）です。

〔2〕 実際には、人が住んでいる場所の大部分に、これらの木
の生えた林や森はほとんどありません。どうしてこんなことになっ
ているのでしょうか。

〔3〕 もともとこれらの森や林は、先に挙げた木々だけで成り立ってい
るものではありません。これらの木々（高木）の他に、一段低い
木々（亜高木）、さらに低い木々（低木）、その下に生える草やシ
ダ植物（草本）という四つの層をなす植物が一体となって構成され
ているものです。

〔4〕 〔 〕、この本来あるべき姿の森は、数千年以上前に人々が農
耕生活を始めると、田畑を作ったり集落を作ったりするために
じやまになり、切りひらかれてしまいました。また、生活の中で火
を使うようになって炭やたきぎが必要になって、切られてしまつた
りもしました。そのために、もともとあつた木々がだんだんとく
なつてしまつたのです。

（宮脇昭 みやわきあきら 『本物の森』で未来を守る」による）

問一 文章中の〔 〕に共通して入る言葉として、最も適当なもの
を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ところが
- イ つまり
- ウ さて
- エ だから

問二 文章中の――線「これらの木々」は、何をさしますか。文章
中から二つ、それぞれ五字で抜き出して書きなさい。

問三 〔2〕の段落は、この文章の中でどのような役割を果たしています
か。その役割を説明したものととして、最も適当なものを、次の
ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 筆者の意見や立場を明らかにする役割。
- イ 筆者が体験した出来事を紹介する役割。
- ウ 筆者の意見を支える具体例を示す役割。
- エ 筆者が疑問に思うことを挙げる役割。

三

小林さんのグループでは、「こどもの読書週間」に合わせ、多くの人に本を読んでもらうために、地域の図書館で「私の大切な本」を紹介するスピーチを行うことになりました。そこで、互いにスピーチの練習を聞き合って、アドバイスをすることになりました。次は、その【スピーチの一部】と【アドバイスの一部】です。これらを読んで、後の問いに答えなさい。

【スピーチの一部】

友達の意味

小林 愛

「友達が多いほうがいい。うわべだけの友達でも、いないよりはよい」、ずっと、そう思っていました。でも、重松清さんの『きみの友だち』を読んでから、一生忘れられない友達が一人でもいればいいんじゃないのか、と思い始めた。

重松さんは、私の気持ちをよくわかっている気がします。ですから、私の心は、いつも重松さんの本にひきつけられます。

「弱きを助け、強きをくじく。」

これは、重松さんが書いた私の心に残るもう一冊の本『くちぶえ番長』に出てくる言葉です。弱い人や小さい子を助けることはできますが、強きをくじくのは勇気がいります。でも、まちがっていることをお互いに注意し合ったり、直し合ったりできたら、その時、本当の友達になれるかもしれません。

私は、もう本当の友達に出会えているのでしょうか。

「きみは□□」、心からそう言ってもらえる人に、私はなりたいと思います。

【アドバイスの一部】

紹介する本に出てくる言葉を引用してスピーチを行っていて、本のよさが具体的に伝わりました。

一冊の本の紹介だけでなく、
()
ので、聞き手に紹介したい本のよさが印象強く伝わりました。

ただ話すだけでなく、紹介する本の表紙や、さし絵を見せながら話すと、相手により一層よさが伝わると思います。



問一 【スピーチの一部】の――線「思い始めた」を、この場面に
応じた適当な言葉づかいに直して書きなさい。

問二 【スピーチの一部】の□に入る言葉を、【スピーチの一部】
の中から二字で抜き出して書きなさい。

問三 【アドバイスの一部】の（――）に入る言葉として、最
も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他の作者の作品と結び付けて話していた
- イ 他の作者とのちがいを取り上げて話していた
- ウ 同じ作者の同じ作品を何度も取り上げて話していた
- エ 同じ作者の別の作品と結び付けて話していた

次のページに問題四があります。

四

山田さんは、となりの席に座っている黒木君の得意なことを伝えるための文章を書くことになりました。

次は、山田さんが書いた二つの【メモ】と【文章】です。これらを読んで、後の問いに答えなさい。

【メモ①】

- ・バスケットボール部所属
- ・かけっこではいつも一位
- ・水泳も速い

黒木君は、
スポーツが得意だ。

【文章①】

黒木君は、バスケットボール部に所属していて、特にドリブルが上手です。かけっこでは、いつも一位です。泳ぐのも速いです。ですから、黒木君は、スポーツが得意な人だと言えます。

【メモ②】

黒木君は、
スポーツが得意だ。

バスケットボール部所属
A
・かけっこではいつも一位
・水泳も速い

【文章②】

黒木君は、スポーツが得意な人だと言えます。なぜならば、バスケットボール部に入っており、特にドリブルが上手で、走るのも泳ぐのも速いからです。

問一

【メモ①】【メモ②】のAに共通して入る言葉を、【文章①】【文章②】の中から七字で抜き出して書きなさい。

問二

【文章①】【文章②】の書き方について説明したものととして、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 【文章①】は、初めに主張を述べてから、その後で理由を述べているのに対して、【文章②】は、理由となる事実を述べた後に主張を述べている。

イ 【文章①】は、好きなスポーツの具体例を示した後に、好きになった理由を述べているのに対して、【文章②】は、スポーツが好きな理由を述べた後に、好きなスポーツの具体例を示している。

ウ 【文章①】は、理由となる事実を述べた後に、主張を述べているのに対して、【文章②】は、初めに主張を述べてから、その後で理由を述べている。

エ 【文章①】は、スポーツが好きな理由を述べた後に、好きなスポーツの具体例を示しているのに対して、【文章②】は、好きなスポーツの具体例を示した後に、好きになった理由を述べている。

五 次の問いに答えなさい。

問一 次の(1)、(2)の——線の漢字の読みがなを書きなさい。

(1) 屋外で応えんの練習をする。

(2) 私は、祖母を敬っている。

問二 次の(1)、(2)の——線のひらがなを、漢字に直して書きなさい。

ただし、必要なものには、送りがなをつけなさい。

(1) 国語のせいせきがのびる。

(2) 水泳部の部長をつとめる。

問三 漢字辞典で、次のア、エの漢字を調べます。部首さくいんで調べる場合、一番はじめに出てくる漢字として、最も適当なものを、次のア、エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 特 イ 物 ウ 補 エ 複

問四 次の□に入る慣用句として、最も適当なものを、次のア、エから一つ選び、記号で答えなさい。

「ぬきにくい草だな。根がはっついて、ぬくの□な。」

ア むねがいたむ イ むねをかりる
ウ ほねがおれる エ ほねをおしむ

問五 次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 次の文の——線ア、オから主語と述語をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

今朝、野鳥が初めて巣箱に入った。

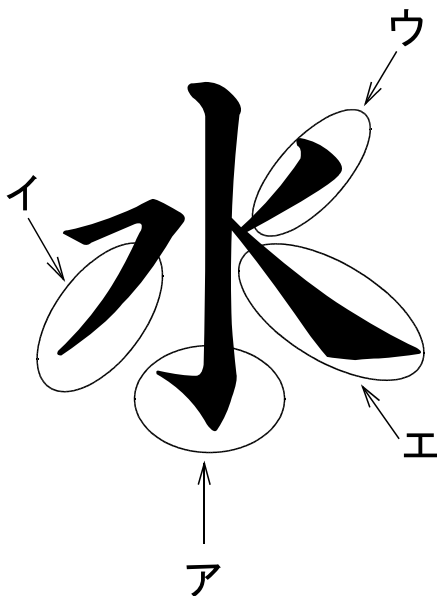
(2) 次の——線の言葉をローマ字で書きなさい。

妹は、きんぎよを飼っている。

(3) 次の【説明】は「水」という字のどの部分を書く際のものですか。最も適当な部分を、後のア、エから一つ選び、記号で答えなさい。

【説明】

だんだん筆圧を強めていき、一度筆を止めてから、ほ先をまとめながら、ゆっくりとはらう。



B 問題

(二十分)

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小川さんは、「総合的な学習の時間」で、宮崎県が取り組んでいる「健康長寿日本一」をめざした福祉の取り組みについて調べることにしました。

次は、小川さんが県の広報担当の山中さんに行ったインタビューの記録と、山中さんから提示された資料です。

●インタビューの記録（一部）

小川さん

まず、平均寿命について教えてください。

山中さん

こちらの資料一を見てください。宮崎県の平均寿命は平成二十二年の調査では男性が約八十歳、女性が約八十七歳でした。全国平均とほぼ同じで、男女ともに長生きしていると言えます。

小川さん

昔と比べて、平均寿命はのびているんですね。

そのとおりです。昭和四十年の時の記録と比べると、十数歳のびたことがわかります。でも、この数字には病気で入院している人や病院に通っている人もすべてふくまれています。県では、健康上の問題で、日常生活が制限されることなく生活できる期間をのばしたいと考えています。この、健康的に生活できる期間が健康寿命です。平均寿命と健康寿命とは、どんなちがいがあるのですか。

山中さん

資料二を見てください。平均寿命と健康寿命を比べてみると、

そこで、男女とも「健康長寿日本一」をめざしているいろいろな取り組みを行っているんです。

小川さん

B

●山中さんから提示された資料

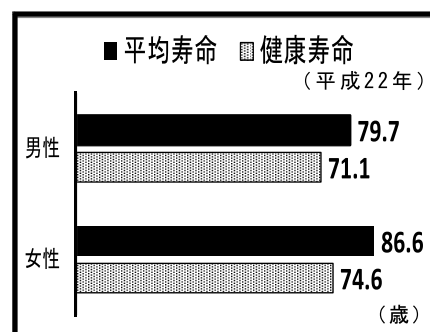
資料一

平均寿命の移り変わり

男性	昭和40年	平成12年	平成22年
全国(歳)	67.7	77.7	79.6
宮崎県(歳)	66.9	77.4	79.7
女性	昭和40年	平成12年	平成22年
全国(歳)	72.9	84.6	86.4
宮崎県(歳)	72.5	85.1	86.6

資料二

宮崎県の平均寿命と健康寿命



(厚生労働省の資料をもとに作成)

問一 インタビューの記録の――線「昔と比べて、平均寿命はのび

ているんですね。」とありますが、小川さんは、どのようなことに心がけてインタビューをしていますか。最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 具体的な数値を示して、インタビューすること。
- イ 自分の経験を交えながら、インタビューすること。
- ウ 共通語と方言を使い分けて、インタビューすること。
- エ 疑問点を確かめながら、インタビューすること。

問二 インタビューの記録の **A** に入る言葉として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 平均寿命も健康寿命も差がないことがわかります。
- イ 平均寿命も健康寿命も男性が長いことがわかります。
- ウ 平均寿命より健康寿命の方が短いことがわかります。
- エ 平均寿命より健康寿命の方が長いことがわかります。

問三 インタビューの記録の **B** には、宮崎県が「健康長寿日本一」をめざしているいろいろな取り組みを行っていることを、山中山にたずねた小川さんの問いかけの言葉が入ります。十字以上、三十字以内で書きなさい。

次のページに問題 **二** があります。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

宮崎君は、食べ物のごみが増えていることを知り、ごみを減らすことの重要性をうったえるために意見文を書くことにしました。
次は、宮崎君が取材をもとに作った文章構成表と、意見文です。

● 文章構成表

序論 (始め)	本論 (中)	結論 (終わり)
ある新聞に、家庭から二百万から四百万トンもの食べ物、ごみとして捨てられていると書いてあった。	ごみとなってしまう食べ物 ・調理せずに取り除いた部分 ・作りすぎて食べ残した料理 ・賞味期限切れとなった食品 ※農林水産省 ホームページより 食べ物のごみを減らす対策 〈私の家〉 ◎買いすぎないように、必要な分だけ買う。 〈私たちの学校〉 ◎給食をできるだけ残さずに食べる。 ◎食べられる人が一口ずつ食べる。	◎必要な分だけを買うようにする。 ◎協力し合って、食べ残しを減らす。

● 意見文

食べ物のごみを減らすために

宮崎 健

ある新聞に、毎年、家庭から二百万から四百万トンもの食べ物、ごみとして捨てられていると書いてありました。私は、この事実におどろき、疑問をもちました。

どうして、そんなにたくさんさんの食べ物捨てられてしまうのでしょうか。農林水産省のホームページを見ると、こんなことが書いてありました。家庭からのごみには、

- ・調理せずに取り除いた部分
 - ・作りすぎて食べ残した料理
 - ・賞味期限切れとなった食品
- などがあるとのことでした。

そこで、食べ物のごみを減らすためにはどうすればよいのか、考えました。

まずは、一度にたくさんさんの食べ物を買わないようにすることです。私の家でも、買いすぎたり、残り物を冷蔵庫に入れておいたりして、結局、そのまま食べずに捨ててしまうことがあります。

確かに、必要なときに困ることがないようにするために、事前に買って備えておくことも大切かもしれません。しかし、災害が発生したときなどの保存用でなければ、必要な分だけ買ったり、本当にそのものが必要なのか、よく考えてから買ったりするべきだと思います。

次に、食べ物は、残さずに食べることです。

私たちの学校では、給食の食べ残しを減らす取り組みを行っています。一人一人が自分に合った分量を決め、その分はできるだけ残さずに食べるようにしています。また、給食を配り終わった後に、まだ残っていたら、食べられる人が一口ずつ食べて、少しでも食べ残しを減らすように心がけています。

問一

意見文に――線「確かに、くしません。」とありますが、この一文が意見文に与える効果として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 反対の立場も視野に入れて書くことで、自分の意見をより明確にする効果。

イ 問いかけになる文を入れることで、さらに読み手の関心を引く効果。

ウ 実際にあつたことと、自分の考えを合わせて書くことで、意見の中心を明確にする効果。

エ 同じ言葉を何度も繰り返す述べることで、自分の主張が明確に伝わる効果。

問二

意見文の□には、この意見文の結論が入ります。文章構成表を参考にし、解答用紙にある書き出しの言葉に続けて、三十字以上、五十五字以内で書きなさい。

